

全国ネット通信

Japan Network for Climate Change Actions NEWSPAPER

Vol.
42
January
2024



Index

令和6年1月1日の石川県能登地方を震源とする地震の影響により被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

地域センターによる地域の中小企業支援	賛助会員紹介	4	櫻田彩子のミニコラム	6
こおりやま広域圏センター紹介	COP28 報告	5	脱炭素チャレンジカップ 2024	
	スタッフ紹介	6	～表彰式・交流会～	6

スルメイカから脱炭素社会を

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事長 高田 研

明けましておめでとうございます。

2023 年は、25 年ぶりに小中学校の教壇に立って授業する機会をいただきました。子どもたちが「気候変動教育」の探求学習に入るための動機づけの授業です。

小中学生には、事前に気候変動の問題を NHK の特集番組で見てもらいました。子どもたちは洪水のことや山火事でコアラが可哀想とか、氷河が溶けて新種のウイルスが出るのが怖いとか…。既に十分に動機づけられており、メディアの教育力を改めて感じました。私の役割は、その気候危機を自分ごとに引き付けることです。

全国ネット通信 Vol.38 号の 2022 年の新年のご挨拶で、対馬の漁船が「気候変動によるスルメイカの不漁」で出漁できなくて困っている話を書きました。この話を深掘りして、小学生でもわかる話に仕立てました。匿名性の高い「イカ問題」ではなく、

植木昭彦さん（当時 85 歳）という長崎県対馬の漁師の方が実際に経験した問題として小学生に伝えました。昭和 22 年（1947）、中学校入学時から、スルメイカの群れを北海道まで追って一年の大半を海上で過ごしてきた漁師が、初めて出合った「気候危機」という問題です。

昨年はこの話を 4 校で実施し、最後は韓国の済州島の中学生に授業しました。

日本でも韓国でも子どもたちはスルメイカが大好きですが、マーケットでスルメイカが消えている、またはとても高額になっていることに気づいていません。大人も気づいていないのではないのでしょうか。

まずは身近な変化に気づくこと、そこから自分たちで探求していくとこのような環境の問題が深く見えてくるという動機づけです。

7 月に授業させていただいた大阪府の堺市立日置荘小学校（稲葉淳郎校長）が、11 月の土曜参観で探求

学習の発表をするというので見学に行きました。9 月には大阪府地球温暖化防止活動推進センターによるうちエコ診断、堺市の環境エネルギー課による家の断熱化など 5 分野の外部講師による授業を経て、子どもたちは 31 の探求テーマを考えてグループを作ったそうです。

グループの提案は多岐にわたり、自然エネルギーの問題点、電化製品の電力消費、住居断熱、自転車移動のための道路改善、次世代の自動車、日々の消費行動、太陽光パネルの問題点、生ゴミ処理にかかるエネルギー消費についてなどです。堺市や自転車メーカーのシマノ（堺市）への提案もありました。

保護者からは、「子どもたちと家庭で環境問題を語り合う機会がとて多くなってきている」という声が寄せられました。

今、「子どもたちの言葉がこの地域社会を変えていく」可能性は大きいと私は考えております。



済州島の中学校で授業する様子



6 学年担任の谷口恵美先生（左）にプレゼンする子どもたち

特集

地域センターによる
地域の中小企業支援

地域センターでの中小企業支援の背景

●温対法改正

地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）が、2021年に一部改正され、地域地球温暖化防止活動推進センター（以下、「地域センター」）が事業者向けの啓発・広報活動の役割を担うことが追加されました。

現在、国内のCO₂排出量のうち、約7割が企業や企業活動に関連した部門から排出されています。このことにより企業が地球温暖化の責任を負っているというだけでなく、解決においての鍵となる役割を果たすことができると考えられます。

●企業の脱炭素経営について

中小企業は日本の全企業数の99.7%を占め、全従業員数のうち、中小企業で働く従業員数は68.8%となっています。このように日本経済を支える基盤が「中小企業」です。

中小企業の脱炭素経営においては、以下のような疑問や戸惑いがあると聞いています。

- ・どこから、どのように省エネ・カーボンニュートラルに取り組んだらいいのかわからない
- ・自社のCO₂排出量を測定する方法を知りたい（現状を知りたい）
- ・環境配慮をしている取り組みをPRしたい
- ・取引先から自社製品や工程に対するCO₂排出量の開示を求められている
- ・再生可能エネルギーを導入するための具体的な方法がわからない
- ・エコアクション21やSBT認定、再エネ100宣言RE Actionに加入するメリットや方法を知りたい
- ・脱炭素化へ向けた設備導入に活用できる補助金を知りたい

中小企業は、脱炭素経営を行う上で、どこに相談をすればよいか、何から始めればよいかを相談できる場所を探していると思われます。

●脱炭素経営に向けた3つのステップ

1. 知る ⇒情報の収集や自社の方針を検討
2. 測る ⇒自社のCO₂排出量を測定⇒可視化を請け負う企業は多数存在
3. 減らす⇒削減計画の策定、削減対策の実行・見直し

1. 知る	1-1	情報の収集
	1-2	方針の検討
2. 測る	2-1	CO ₂ 排出量の算定
	2-2	削減ターゲットの特定
3. 減らす	3-1	削減計画の策定
	3-2	削減対策の実行・見直し
取組の発信		脱炭素経営を事業成長に繋ぐため 取組を社内外へ発信。

●中小企業が脱炭素経営に取り組むことのメリット

大企業を中心に脱炭素経営を事業成長のチャンスと捉え、カーボンニュートラルに向けて社を挙げて取り組むことにより、新たな強みを作ろうとする考え方が広がっています。先行して脱炭素経営に取り組む中小企業では、主に5つのメリットを獲得しています。

メリット
1

優位性の構築

メリット
2

光熱費・燃料費の低減

メリット
3

知名度・認知度の向上

メリット
4

人材獲得力の強化

メリット
5

好条件での資金調達

企業の従業員を対象とした「脱炭素化支援セミナーツール」の特徴

中小企業が脱炭素経営をすすめていくには、従業員の理解も必要です。社内向けの研修などで、「自社が出来ることは何か」「どのような付加価値を提供できるのか」を考える際に使える、「脱炭素化支援セミナーツール」を作成しました。

同ツールは、講師の依頼を受けた地域センター職員が、対象や時間に合わせて自由にカスタマイズして使用できるのが特徴です。

<メインスライド>

- ・気候変動の基礎から企業の取り組み情報など6項目から選んで作成可能（全68頁）
- ・各地域の事例など、事業規模に合わせて資料の追加も可能
- ・欄外（ノート）には、掲載資料の詳細情報も記載あり

<ワークショップスライド>

- ・6通り以上のワークショップ（案）を掲載
- ・クイズなど、アイスブレイクのページも用意



脱炭素化支援セミナーツールの例

※地域センター職員のみが利用可能です。

※自社でツールを使用してセミナーを開催したいというご要望がございましたら、最寄りの地域センターにご相談ください。

●ツールの使い方研修会

全国ネットは、2023年9月19日～20日国立オリンピック記念青少年総合センターで、地域センター従事者研修を開き、その中で地域センター職員を対象に、同ツールの研修会を実施しました。同ツールの作成に協力した、株式会社フィールドノートの鳥越靖徳氏からツールの効果的な使い方を学びました。



鳥越氏によるツールの使い方研修

自分で組んだスライドで発表する参加者

●活用事例：島根県センター

島根県センターは、2023年12月までに計3回、（一社）しまね産業資源循環協会に所属する産業廃棄物処理業者の従業員向けに同ツールを使った脱炭素経営を学ぶ研修を開催しました。講師は、島根県センターの葭矢崇司氏が務め、ビジネスの範疇だけでなく、気候変動の概要や具体的に家庭や社内で取り組める事例を説明しました。会社に戻ってからも実践できるよう、ツールの中に含まれているカーボンニュートラルチェックシートを配り、具体的な行動につなげるきっかけとしました。

脱炭素化支援セミナーツールを使って講師を務めた感想

このツールは地域センターが企業向け研修を実施する際の負担を下げることができ、企業支援の第一歩を踏み出すのに大いに役立った。内容は網羅的であり全体の情報量が多いが、各スライドにコンパクトに情報がまとめられているため、スライドの取捨選択が容易であり、研修内容によって内容の再構成がしやすかった。今回の資料の再構成に要した時間は、実質1時間弱と資料作成の大幅な短縮にもなった。ツールを利用する際は、対象となる業界や参加者の属性に合わせたスライドの選択が重要であり、さらに補足的な資料や説明を加えるなど工夫次第で、より参加者の理解を深められると感じた。



企業の特徴に合わせて内容を変えて研修

地域センター紹介

こおりやま広域圏地球温暖化防止活動推進センター

こおりやま広域圏地球温暖化防止活動推進センター（こおりやま広域圏センター）は、2023年7月1日、特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク（UNN）が、こおりやま広域圏連携中枢都市圏ビジョン（17市町村）を推進する郡山市から指定を受け開設されました。60番目の地域センターです。センター名には、郡山市だけでなく広域圏17市町村と連携して事業展開していくという意味を込めているそうです。

UNNの副理事長でもあるセンター長の相楽昌男さんにお話を伺いました。

——センター指定1年目の活動について

UNNは福島県地球温暖化防止活動推進センターを運営していますが、より地域に密着した活動を行うために、こおりやま広域圏センターの活動を始めました。

以前より交流があった、域内にある国立環境研究所福島地域協働研究拠点、産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所などと連携して事業を行っています。

1年目の活動は、（1）環境やSDGsの出前講座、（2）富久山クリーンセンター内にある体験型環境学習施設の活用、（3）ふくしまゼロカーボンDAY! 2023への出展、（4）こおりやま広域圏気候変動対策推進研究会へアドバイザーとしての参加などを行いました。



ふくしまゼロカーボンDAY! 2023（10月14日開催）へ出展

——次年度に向けての抱負

UNNは、2023年にうちエコ診断実施機関に指定されました。次年度は、うちエコ診断士の養成を行うとともに域

内に診断実施機関を増やすことで、うちエコ診断実施の土台を整備し、家庭における地球温暖化防止の取り組みを支援していきます。

事業所向けには、省エネルギー診断と脱炭素に向けた経営診断などのサービスを予定しています。また、17市町村が行う出前講座への講師の派遣、環境イベントへの出展などを予定しています。

特に力を入れたいこ

とは、こおりやま広域圏内での地域活動として、「こおりやまESD推進アライアンス」の活動の活性化です。



こおりやまESD推進アライアンスの活動

——全国の地域センターへのメッセージ

60番目の新参者です。六十面体（hexecontahedron）は多様です。一般社団法人地球温暖化防止全国ネットワーク（JNCCA）／全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）「盛り上げ隊」の一員に加えていただきました。

各地の地域センター様を訪問することを計画しています。ぜひ、この「他流試合」にお付き合いください。「やあやあ、我こそは、こおりやま広域圏の、生まれたてのピヨピヨなり！！ご指南いただき候！！」

NEW

賛助会員

株式会社 GO TO MARKET

（東京都渋谷区）

GO TO
MARKET

事業内容 マーケティング支援、DX支援、インターネットメディア

この度は参画をさせていただきまして誠にありがとうございます。脱炭素社会に向けて、弊社は各種情報を取得しながらも弊社の体制で継続的に進めるものから随時取組みと実績を重ねて行きたいと考えております。足元は、エネルギーコスト削減に寄与するための省エネルギー観点での会社運営を模索しております。脱炭素社会実現に向けた各種、取り組みによって、将来にわたる環境上のリスクを少しでも低減できるよう貢献したいと考えております。

COP28 報告

2023年11月30日から12月13日までアラブ首長国連邦（United Arab Emirates, UAE）・ドバイで、気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）が開催されました。COP28には、前回のCOP27に続いて当法人からもスタッフを派遣しました。COPに参加したスタッフより、現地で感じたことを報告します。

姿勢を伸ばして、世界を見渡す

事務局長 平田 裕之

COP28UAEに参加してきました。

UAEは夏には47度、湿度90%にもなるそうで、屋内での生活を強いられることから巨大なモールがあちこちにあり、なかにはスキー場まで併設されています。砂漠の中にできた大都会・ドバイは、ディズニーランドが街になったような異世界で、毎夜高層ビルにプロジェクションマッピングが映し出され、噴水がもてなす、渇きと富と成長を象徴する国際都市でした。

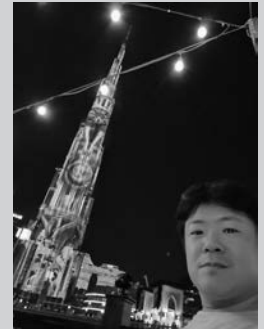


ジャパンパビリオンで鳥取の大学生と発表しました

そこで語られる気候変動は当然視点も異なり、グローバルサウスが問題視する「損失と被害」に対しての基金表明を率先して行うとともに、産油国地域から再生可能エネルギー社会へ転換するための「公正な移行」についてのメッセージが色濃く出されていました。

地理的要因、歴史背景、政治など、様々な背景を持つ国が集まって、気候変動について語らう難しさとダイナミックさを感じました。

四季豊かである一方で災害もあり、勤勉でものづくりに長け、草の根で気候変動普及の仕組みのある「ユニークジャパン」にも、大いに存在感は発揮できそうです。



世界一高いビル
(ブルジュ・ハリファ)

COP28 への参加報告

事務局次長 木場 和義

国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）が、先進国と産油国の意見対立がありながらも、化石燃料から転換する方向性を明記した成果文書を採択して終了しました。

このCOP28に参加することができましたので、現地の情報や雰囲気を中心に報告します。

会場は、2021年に開催されたドバイ万博の会場を再開発された「エキスポ・シティ」で、438ヘクタール（東京ディズニーランドのテーマパークエリア約8.5個分の広さ！）という超広大な場所を、ブルー・ゾーン（COP関係者に限定されるエリア）と、グリーン・ゾーン（市民も入場可能なエリア）に分けられていました。ブルー・ゾーンには、メインの交渉会議やサイドイベントが開催される10を超える大きな会議場の他、世界中の国やテーマごとのパビリオンが、広大な敷地内に林立した建物の中に配置されていました。

超広大な敷地と日中は強い日差しで真夏のような会場でしたが、各国の交渉団メンバーやNGOメンバー、報道関係者等が、関心のある交渉会議やサイドイベント、パビリオンのセミナー、交流ラウンジ等集まり、正に国境のない交流がありました。

パビリオンを回った中で、印象的だったものを紹介します。

—キャパシティ・ビルディングのパビリオンでは、気候教育に関する内容の他、先住民の市民権と市民力に関するセミナーがありました。

—スウェーデン・パビリオンで、報道がユース世代に何をどう伝えるかをテーマにしたセミナーがありました。

—原子力技術パビリオンの存在感が大きくなり、気候変動対策となるエネルギーであることをアピールしていました。

COPとしての成果は報道等で発表された通りですが、目標の実現のためには各国政府の政策だけでなく、市民の理解と力が重要であることを、イベントやセミナーで感じました。

地域センターがハブとなって、地域の主体と連携して市民と共に地域の脱炭素化を推進する活動は、世界・アジアで求められている脱炭素の先行モデルとなる可能性があります。



COP会場



開会式

—COP27議長からCOP28議長への交代



エコアナウンサー 櫻田彩子の

ミニコラム



櫻田彩子 Sakurada Ayako

Profile

エコアナウンサー。テレビ朝日「じゅん散歩」のコンシェルジュ。ナビゲーターほか、「脱炭素チャレンジカップ」の司会など。全国ネット賛助会員。

我が家の趣味は、釣りです。先日の相模湾での釣果は…大きなプラスチックごみ×3。地元の方に聞くと、海水温が高く狙った魚が釣れにくい、と。そういえば、三陸の方が「以前獲れていた魚ではなく、南の魚が獲れるようになった」と言っていました。

他にも問題意識を刺激することが。それは「気候危機とジェンダーについて」議論の機会を得たことや、環境DNA調査に行った湧水地で生物多様性と企業の関わりを考えたことなどです。

一見、関係ないように見える、海洋プラ、ジェンダー、生物多様性、企業…モヤモヤしますね！そうです。通底しているのは気候危機。プラ問題は汚染の問題であり、気候危機の問題。気候危機に取り組む企業はジェンダーにも先進的に取り組んでいるというデータ。生物多様性や気候危機を経済の範疇として考える重要性。

現状を変えたいあなた！仲間がいます。抱えきれない思いを胸にぜひ、脱炭素チャレンジカップに来てください。共に考え前進しましょう！



海洋プラスチックが釣れました（魚を釣りがかった…）

スタッフ紹介

総務グループ
西 亜希子

写真のタイトルは「シロクマとわたし」です。安全地帯のコンサートに行った日の写真です。

注）安全地帯とは全く関係ありません



短期派遣スタッフ募集で面接を受けてから早7年！！

今も JNCCA の裏でひっそりと仕事をしております、総務グループの西です。

総務グループに配属される前は、家庭エコ診断グループでうちエコ診断士の資格試験運営に携わっていましたが、なかなか表に出ないレアキャラですのでメールで名前を見たことある…かもしれないという方がほとんどではないかなと思います。今回スタッフ紹介で選ばれてしまったので、普段お会いできない皆様に姿をお見せすることとなりました。

最近の私はと言いますと、仔犬をお迎えして毎日噛まれております。とある記事に「新しい研究によると、気候変動の影響で犬に噛まれる事故が増える可能性がある」と書かれていました。これ以上噛まれてはたまりないので、「デコ活」していきたいと思います。今後とも皆さまどうぞよろしくお願いいたします。



噛む子



噛まない子



「脱炭素チャレンジカップ 2024」 ～表彰式・交流会～

脱炭素な地域活動が一堂に会する、年に1度の祭典！

「脱炭素チャレンジカップ2024」は2月6日（火）、東京大学キャンパス内の伊藤謝恩ホールで、表彰式と交流会を開催します。脱炭素を目的とした地球温暖化防止に関する地域活動について書類・プレゼンテーション審査を実施し、環境大臣賞、文部科学大臣賞をはじめ、20を超える各賞を決定しました。全国から選び抜かれた団体の取組と表彰の様子を、会場またはオンライン配信でご覧ください。

○ご来場は無料・事前登録制です。お申込みは、脱炭素チャレンジカップ公式サイトからお願いします。

○オンライン配信は、2024年2月6日（火）10時より公式サイトからご視聴いただけます。

今回は会場限定で受賞者・企業・委員等が交流を深める「エールシールを贈りあおう！」も実施します。それぞれの活動への理解を深め、さらなる活動の発展の後押しになることを期待しています。

あなたの1票で決まる！？WEB投票で応援しよう！

各団体のプレゼンテーション動画をYouTubeで公開中です。「良い！」と思った動画に高評価ボタンを押して、団体を応援しましょう！皆さんの投票でマクドナルド・オーディエンス賞が決定します。受賞団体には、「ハンバーガー商品券1年分」が贈られます。



▶脱炭素チャレンジカップ
チャンネル登録をお願いします！

皆さまのご来場・ご参加を心より
お待ちしております！



2024もオンライン併用のハイブリッドで開催予定

お問合わせ先

【脱炭素チャレンジカップ事務局】 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
E-mail: zccc@zenkoku-net.org TEL: 03-6273-7785

脱炭素チャレンジカップ

検索

編集後記

2024年は新年早々、能登半島で地震・津波が発生しました。被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。3年間に及びましたコロナ禍を経て2023年から各地域の皆様と直接顔を合わせる機会が増えました。全国ネットでは、引き続き地域からの「気候危機」への取り組みを皆様と一緒に推進していきたいと思っています。

（家庭エコ診断グループ 中垣 藍子）

地球温暖化防止全国ネット通信

第42号 2024年1月

【編集・発行】一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット（JNCCA）
〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-9-12 九段ツツナビル7階
TEL: 03-6273-7785 <https://www.zenkoku-net.org/>



一般社団法人地球温暖化防止
全国ネットの活動をサポート
してください！

年会費：個人会員1口 5,000円
団体会員1口 20,000円

